

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

# F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

〔特集〕 交流人口拡大に向けて  
～福井県の可能性を探る～

# 越前海岸の魅力を発信し、ヒト、モノ、コトをつなぐ

越前加賀海岸国定公園の海沿いに佇む、志野製塩所。製塩や製塩商品の販売、製塩体験などを行っています。代表を務める志野佑介氏は、2017年に千葉県から福井市に移住。2022年、産業支援センターのおもてなし補助金を活用し、製塩所のショップやイートインスペースを拡充しました。地元の人や移住者と交流し、交流人口から関係人口、定住人口へとつながる地域の魅力発信の取組みを伺いました。



代表 志野 佑介 氏



同社HPはコチラ！

DATA

越前海岸志野製塩所

所在地: 福井市鮎川町133-1-6  
 代表者: 志野 佑介 氏  
 事業内容: 製塩、農作物の生産、塩・農作物の販売など  
 URL: <https://anoh.jp/>

海と山と夕陽に魅了され 千葉県から福井市に移住

「海と山の距離がこんなに近い場所は、全国的にもなかなかない。海に沈む夕陽は美しく、日々違って飽きません」福井市南菅生町へ移住した決め手を、志野氏はそう笑顔で語ります。志野氏は東京農業大学を卒業後、千葉県で12年間農業に従事。2017年に坂井市で知り合いが営む農場を手伝うため福井に来た時、休日にドライブした越前海岸の景色を気に入り移住を決意します。この地で自分が目指す活動をしたいと語る志野氏の思いを、地元の不動産会社は真摯に受けとめ、「福井に来たことを後悔ないように」と築120年の古民家と東京ドーム1個分の山と田んぼを紹介されました。

薪火で炊き上げる製塩法 自然の中で多彩な活動も

志野氏の塩作りは、ポンプで汲み上げた海水を3日かけて薪火で炊き上げ、熾火で結晶させる製法です。年間通して必要な薪は、地元の協力



自作の釜。薪火で塩づくりを行っています。

豊富。透明度が高く、季節で濃度や成分が変わる地元の海水を使った塩は、まさに越前海岸の結晶なんです」と志野氏は胸を張ります。

米や野菜、鶏を育て、果樹を栽培し、夏は海人として海に潜り、塩を作る。そんな志野氏が目指すのは「1000の仕事ができる百姓」だとい

ます。「なんでもできる百姓は、僕の憧れ。自分はまだまだですが、笑ってはいられないと思うので『百笑』と名乗っていて、お塩の名前も『百笑の塩』です」。

2022年、産業支援センターのおもてなし産業魅力向上支援事業助成金を活用し、ショップを広げ、海や塩づくりを眺められるイートインスペースを設けました。「ヒトモノコトを伝え繋がる商店」を掲げるショップ『しの屋』では、『百笑の塩』を通じて出合い、コラボレーションした県内外の多彩な商品などを販売。人気の塩づくり体験用の製塩釜も新設し、宿泊体験も可能になりました。

仲間と共に拠点をつくり 越前海岸の暮らしを発信

志野氏と幅広い活動を共にするのは、越前市出身の奥さま、一緒に移住した東京出身のスタッフ、神戸出身の新人スタッフ、そして、『越前海

岸盛り上げ隊」の仲間をはじめとする地元の人々です。「福井の人は謙虚だけど自分に誇りを持っていて、外から来る人を大きい器で受け入れてくれます」と志野氏。今後、北陸新幹線延伸開業などで交流人口の拡大が期待される中、「ここには豊かな資源が山ほどあるので、それを生かせる人が集まってくればおもしろいのでは」と可能性を分析。「実は、両親もこちらに移住しています。他にも、友人家族などつながりのある人が10人ほど移住している。それぐらい魅力的な場所なんです」とほほ笑みます。

一方で、越前海岸の魅力を広ぐ伝え、観光客などの交流人口から地域のファンとなる関係人口、定住人口へとつなげるには、「まずここに来てもらわない」と表情を引き締めます。「おいしい『塩』

が低く海水の沸騰に時間がかかるなど大変な作業です。ガスを使えば効率よく塩を作れます。でも、薪火で丁寧に炊いた塩は、滋味深く、栄養も

で古い家の廃材も使用。薪火を使う製塩所は夏になると40℃の高温になり、冬は気温が低く海水の沸騰に時間がかかるなど大変な作業です。ガスを使えば効率よく塩を作れます。でも、薪火で丁寧に炊いた塩は、滋味深く、栄養も



ショップには、奥さまが育てた野菜やハンドメイド作品も。



製塩所の壁には、自身の活動に関する壁画も。

Contents

表紙 越前海岸志野製塩所内

特集 交流人口拡大に向けて ~福井県の可能性を探る~

- 1 【CASE①】越前海岸志野製塩所
- 3 イントロダクション 江川誠一氏
- 5 【CASE②】㈱Saba & Co
- 6 【CASE③】トミオカファーム合同会社
- 7 【INTERVIEW①】鷹屋信隆氏
- 8 【INTERVIEW②】北陸デジタルものづくりセンター
- 9 TOPIC MEO対策、アンテナショップインタビュー
- 11 今月の注目企業 ㈱ヒゲ農園
- 13 よろず支援拠点 経営Q&A
- 14 総合相談窓口からのご案内
- 15 デジタル変革への挑戦！
- 16 Start a New Project
- 17 グッドデザインシンキング
- 18 人材育成部通信
- 19 インフォメーション
- 21 新スポット巡礼

# 交流人口拡大に向けて

## 福井県の可能性を探る

来年3月16日の新幹線開業や中部縦貫自動車道の整備で、福井県は交流人口の拡大が期待されます。本県を取り巻く環境が大きく変わっていく中、今回は福井に移住し事業を行う方へのインタビューやアンテナショップへのインタビューで福井県の姿を探ります。移住された方々や首都圏の方々から見た福井の強みや可能性を伺いました。



### 専門家インタビュー

## 交流人口拡大が与える影響とは

交流人口拡大が福井県にどのような影響を与えるのか。ここでは、福井大学 国際地域学部で講師を務める江川誠一氏へのインタビューをお届けします。観光産業だけではなく、観光産業以外への影響といったお話も伺いました。

——新幹線開業もいよいよ間近に迫ってきました。

そうですね、新幹線開業で福井県を取り巻く環境は大きく変わります。直接的な効果でお話すると①東京と福井が直結し時間短縮される②旅客輸送量が増える③(国として)災害に強くなるといった効果が見込まれます。福井県のこ

とをメディアも取り上げてくれるし、コロナ明けのタイミングにも重なる。これまでの入込数が少ないからこそ目新しさもあるので、一度行ってみようかと考える関東の方も多くなります。結果、観光面では、福井県における県外観光客の内訳が関西42・1%、中京26・4%、北陸13・4%、関東8・9% (令和元年時点、4ページの図参照) となっていました。また、新幹線開業による観

光消費増加の効果は旅館や飲食店といった観光関連の業種の方に及ぶわけではありませぬ。観光産業は裾野が広いいため、様々な産業や企業に効果が波及します。例を挙げるなら、旅館や飲食店で消費が増えた場合、食材の仕入れで農家さんや卸売業の方に、お土産品の仕入れで食品製造業や伝統工芸品の方に、店舗内の装飾で花屋さんにといったことが考えられます。このように、観光消費増加による間接効果は広い産業・企業に波及していきますので、今は関係のないと思われる所にも効果が波及していくでしょう。

——福井県の課題や可能性とあった所はいかがでしょうか。

関東の方は価格が高くて良いものであれば購入してくれますから、福井のものづくりや商品は素晴らしいものだ、と自信をもって打ち出していくことが大事だと考えて

います。それと同時にブランドを作り上げることや、商品に関する背景やストーリー、特長がしっかりと伝わるようにデザインしていくことも必要ですね。また、最初は食べ物や伝統工芸といった所が目向けていくと予想されますが、その後は観光とは遠い分野、例えば県内企業のオンリーワン技術といった部分にも目が向いていくはず。こうしたこともチャンスと捉えて、活かしていかなければなりません。可能性という点を立地の面からお話すると、新幹線開業で東京と福井が早く太く結ばれ、三大都市圏全てに近い県となります。福井県は災害が少なく、水もきれいで豊富。教育水準が高くて人材の質も悪くない。車での移動にはなりますが、お店も大体揃っています。問題なく生活ができますし、中部縦貫自動車道が整備されれば、物流面も良くなるという環境にあります。石

川、富山では実際に企業立地

が増えましたし、福井県もそうなる可能性は十分にあります。他にも移住の選択肢に入るといったことも考えられますね。

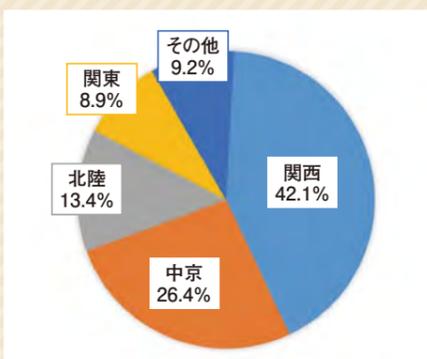
——交流人口拡大の効果は様々な所に広がっていくのですね。

はい、新幹線開業まで残り3カ月、中部縦貫自動車道の整備も進んでいます。福井県はこれまで人の交流が少ない県でしたが、これから大交流時代に突入するでしょう。交流人口拡大は福井県が持つ価値や強みだけではなく、逆に課題や不足

をメディアも取り上げてくれるし、コロナ明けのタイミングにも重なる。これまでの入込数が少ないからこそ目新しさもあるので、一度行ってみようかと考える関東の方も多くなります。結果、観光面では、福井県における県外観光客の内訳が関西42・1%、中京26・4%、北陸13・4%、関東8・9% (令和元年時点、4ページの図参照) となっていました。また、新幹線開業による観

また、県外から来る人や企業が

図 福井県における県外観光客のシェア(令和元年)  
(北海道、東北、関東、中京、北陸、関西、中国、四国、九州・沖縄)



福井大学 国際地域学部 講師  
江川 誠一氏

福井大学国際地域学部で講師を務める。観光学と地域経済論を専門とし、(一社)DMOさかい観光局専務理事、坂井高校非常勤講師、(一社)BEAU理事、NPO法人まちづくりカレッジSakai理事も務める。

CASE 3

# 福井の繊維産業に惹かれ移住 「顔の見えるモノづくり」を



同社HPはコチラ!

2022年、福井市春日に設立したトミオカファーム合同会社。同社はアパレル製品の生産だけでなく、残反やハグレを使用した商品づくりも行っています。移住・起業のきっかけや経緯、現在行っている事業の詳細を代表の富岡一樹氏に伺いました。

DATA

トミオカファーム合同会社

所在地:福井市春日1-6-4  
代表者:富岡一樹氏  
事業内容:アパレル製品及び生活雑貨の企画製造及び販売、ブランドディレクション業務、オリジナルブランドの企画製造及び販売  
電話番号:090-8596-0103 URL:https://tomiokafirm.com/



代表 富岡 一樹氏

**福井の繊維産業に惹かれ移住を決める**  
約30年間、アパレル業界で勤務していた経験を持つ富岡氏。2022年春、東京から福井に移住し起業しました。富岡氏はきっかけの一つに「福井の繊維産業の面白さ」を挙げます。「仕事の中で何度か福井の繊維関連工場に伺うことがありました。海外ではできないような高い技術が求められることをされていまし、縫製以外にも刺繍や染色などの二次加工が県内で完結していることに凄さと面白さを感じました。この福井の地で自分が良いと思う商品を作りたいという想いも出てきましたし、福井の工場の方からも声をかけていただいたので、移住・起業を決めました」

**ゆくゆくは 売れる側のお手伝いも**  
「移住、起業を考えた時に自分が各工場さんを繋げる役割になれたら面白いだろうなという想いもありました」と富岡氏。残反・端材を使用した商品づくりには、工場間の横



残反・端材を利用した商品には、クッションや椅子といったものも。

生産のモノではなく、本当に必要で自身の価値観に合うモノを選びたいというマインドが生まれてきていると思えます。最初は計画していなかったのですが、残反や端材が捨てられるのもつたないと感じましたし、各工場でも共通の悩みだと聞いたので、これを売りにした商品を作ろうと考えました」と話します。

最後に「僕自身はアパレルの企画や販売といった売れる側の仕事を元々していました。今後は直接消費者に商品を販売できる場所もしっかりと作っていきたいですね」と富岡氏。「売ることに関するお手伝いができるようになり、福井の繊維産業を発信していくことができれば」と力を込めます。

CASE 2

# カフェをサイクリングの拠点に 地元の良さを再発見



同社HPはコチラ!

2013年、関西から熊川宿への移住を機にSaba\*caféをオープンし、サイクルショップの運営も行う株式会社Saba&Co。移住のきっかけやこれまでの活動、福井に対するイメージといったお話をカフェのオーナーである反田良子氏、フォトグラファーやサイクリストとして活動を行う反田和宏氏の両名に伺いました。

DATA

株式会社Saba & Co

所在地:三方上中郡若狭町熊川112-16-1  
代表者:反田良子氏  
事業内容:Saba\*Caféの運営、写真・電子出版物の制作、自転車・中古自転車及び関連部品の企画・売買・レンタル  
電話番号:0770-62-9048 URL:https://saba-cafe.com/



代表取締役 反田 良子氏



サバは肉厚でボリューム満点。ハーフサイズもあります。



和宏氏所有の自転車、実際に乗ってみると快適でした。

**熊川宿へ移住し、Saba\*caféをオープン**  
2013年、熊川宿にオープンしたSaba\*café。小浜市の知人を通じて移住先を探る中、偶然出会った現在の場所に店舗を構えました。同店のメニューのひとつ、サバサンドのアイデアはトルコ人留学生の受入から得たもので「鯖街道の中でも何か違うものを提供したいと考えていました。トルコではサバサンドが一般的だと聞き、メニューを作りました」と良子氏。特製のマヨネーズを加えるといったアレンジも加えたサバサンドは、同店の看板メニューとなっています。

**サイクリストの交流拠点としての側面も**  
他方、同店はサイクリングウェアブランドRapha(ラファ)が作る会員制クラブ、RCCの県内唯一のパートナーカフェでもあります。カフェに隣接する形でサイクリング向けの自転車販売・修理等を行う店舗も設置。自身もRCCの会員であり知識・経験豊富な和宏氏が運営を担っています。

和宏氏は福井県の環境についてこのように話します。「よく福井県には何も無いと言われますが、自然も豊かで交通量も都会ほど多くない。サイクリストにとって、非常に良

い環境です。様々な角度から見直すと、福井県の良さを再発見できるのではないのでしょうか。コロナウイルスの影響でサイクリング人気も高まったそう、和宏氏は現在、福井県のサイクリングルート選定にも携わっています。

**自転車で人生を豊かに カフェはより多くの人に**  
「サイクリングで様々な場所を回ることで人生が豊かになると信じています」と和宏氏。「地元のことをあまり知らない方も意外に多いと感じることがあります。県内でもサイクリングに「ハマる」人が増えれば、県内外の色々な場所を知る人が多くなり、地元の良さが見えてくるはず。そうして、福井の良さを知る人を増やしていきたいですね」と続けます。最後に良子氏には「若狭町や熊川宿に来られる皆さんに立ち寄ってもらえる場所にしていきたいですね。そのためにも、メニューの充実やお店づくりをしっかり行っていきたいです」と抱負を語っていただきました。

特集 交流人口拡大に向けて、福井県の可能性を探る、

# 顧客を理解し、可能性を活かす

デザインアシスト代表 鷹屋 信隆氏

ここでは、福井デザインアカデミー（FDA）で講師を務める鷹屋信隆氏へのインタビューをお届けします。このたび福井に移住もされた鷹屋氏に、FDAでの感触をもとに、県内企業の強み、可能性といったお話を伺いました。



—— 移住のきっかけを簡単に教えてください。

福井にいる方々が面白いというのが大きな理由です。FDAの講師を務めて18年になりますが、色々な方とつながることができました。移住前は大阪に住んでいましたが、コロナで仕事がリモート中心になったこともあり、面白い方々のいる福井に移住しようと思いました。

—— FDAで講師を務める中で感じることはありますか。

伝統工芸や繊維・眼鏡といった地場産業もあり、真面目にものづくりを行っている方が多いですね。講師を務めるようになった18年前には伝える部分が少ないかと思うこともありましたが、今では変わってきていると思います。ただ、顧客のことを理解するという部分を強化できれば、まだまだ県内企業の可能性を引き出すことができると考えています。

—— 顧客を中心に考えることでまだまだ伸びる可能性があるのですね。

そうですね。お客さんの情報をしっかり取って人間中心に考えていくことで、まだまだ伸びていく可能性を秘めていると思います。新幹線開業も話題になっていますが、考え方は同じだと思います。首都圏から来る方が多くなる中、何を求めて福井に来るか、どういう考えでお土産を選ぶのかということを理解することは大事です。お金の感覚も違うかもしれないし、首都圏で常に色々なものに触れているという意味でいうと物選別に厳しい人たちが来ることになる。だからこそ、人間中心で考えていくことが必要になると思います。

今年からデザインセンターふくいにおいて、12月末までデザイン相談室という場も設けています。少しでも県内企業の皆様のお役に立てばと思っていますので、お気軽にご相談ください。

るようになった18年前には伝える部分が少ないかと思うこともありましたが、今では変わってきていると思います。ただ、顧客のことを理解するという部分を強化できれば、まだまだ県内企業の可能性を引き出すことができると考えています。

東京や大阪といった大消費地ではない福井は、トレンドリやお客様が求めているものをキャッチしにくい環境です。一次情報（自分が直接集めた情報）、二次情報（誰かがすでに集めた情報）というマーケティング的な言い方で言うと、一次情報が集めにくい環境とも言えますが、二次情報を取るだけでも違ってくるはずですよ。一昔前に比べて信頼できる二次情報も取りやすくなりましたし、情報収集には手間をかける価値があります。もちろん情報の見方も大事で、固定概念をなくすといったポイントがありますので、移住を機にこうしたマーケティングの考え方も深く伝えていければいいなと思っています。

# 高い技術力で新しい価値を

国立研究開発法人産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンター 所長 芦田 極氏

今年5月21日、坂井市に産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンターが開所しました。全国12拠点、7領域にまたがる広範な研究体制をもつ同研究所の中で、北陸地域において「デジタルものづくり」の支援を行う機関です。

今回は、茨城県つくば市を拠点に全国の企業のものづくり研究開発を支援されてきた所長の芦田極氏に、福井県内企業の強み・弱みや可能性などについてお話を伺いました。



HPはこちら！



北陸デジタルものづくりセンター  
所在地: 坂井市春江町江留上大和10-2  
電話番号: 050-3659-5698  
URL: https://www.aist.go.jp/hokuriku/

—— 北陸デジタルものづくりセンターの概要を教えてください。

北陸地域の中小企業・スタートアップ企業等による「デジタルものづくり」を活用した高付加価値化・生産性向上のための取組みを支援し、新産業の創生・育成、地域経済の活性化に貢献することを目的として5月に開所しました。具体的には、高機能

性衣類（スマートテキスタイル）の開発と、デジタルものづくりを加速する金属3D造形技術の実証研究を2本柱として取り組んでいるところです。

—— 県内企業の強みと弱みはどんなところだと思われませんか。

福井に来てから、眼鏡の生産現場などを訪問させていたのですが、チタンなどの難しい金属材料を相手に、小さな金属部品を精度よく仕上げ加工技術のレベルが高いと感じました。丁寧に高品質なものを造り出す技術力の高さは、大企業だけでなく中小企業も十分なポテンシャルを有しており、あらゆる業種を通じて一定水準以上のものづ

くりができる、これは福井県のものづくり企業の強みだと思います。

その一方で、これは福井県に限った話ではありませんが、日本の、特に地方のものづくり産業には、まだまだ下請け体質が残っていることも感じました。加工屋の基本は「図面通りにものを作る」であることは間違いありませんが、図面に無い要求仕様を読み取って、きつちりと造り込むことでお客様の信頼を得る仕事をしているのだと思います。見えないところで勝負しようとしても、自社の技術が他社と比べてどの点で優れているのか伝わりません。自社では当たり前前の技術でも、他社ができないれば立派な強みです。

—— 県内企業へのエールをお願いします。

新幹線延伸や中部縦貫道の整備で交流人口の拡大が期待される中で、従来、取引がなかった企業との交流や展示会等、企業とのコンタクトや自社が持つ技術の可能性をアピールする機会が増えてきます。同様に、県外の企業が福井県へ進出してくる可能性もあります。企業交流や展示会において、現有の技術力のアピールに加えて、新たな製品、活用事例をイメージしたデモンストラーションを見せることで、展示側、来訪者側、双方に新たな発想が生まれる場になると思います。新たな商品の開発「ものづくり」から「ことづくり」つまりサービスまでのビジネス展開を目指すには、他企業との連携も必要になります。当センターでは、無料の技術相談も受け付けておりますので、どんな内容でも遠慮なくご相談にお越しくください。



産総研  
北陸デジタルものづくりセンター 所長 芦田 極氏

芦田氏プロフィール 1998年千葉大学大学院博士課程を修了後、通商産業省工業技術院機械技術研究所（現産総研）入省、経済産業省産業機械課出向、フィンランド国立技術研究所VTT訪問研究員、製造技術研究部門長などを経て、2023年1月より現職、4月から福井市在住。

特集 交流人口拡大に向けて、福井県の可能性を探る、

# 来県客を呼び込む！ MEO対策

福井県に訪れた人を店舗に呼び込むことは重要な課題の一つ。その対策のひとつにMEO対策（マップ検索エンジン最適化）があります。MEO対策の概要とポイントについて、よろず支援拠点コーディネーターで、株式会社BetterWEB 代表取締役の道下宏一氏にお話を伺いました。

ご興味のある方は  
よろず支援拠点の無料相談を！



地道に対策を行っていくことが重要なのですね。

そうですね、地道な作業にはなりますが、MEO対策は手軽に始められますし、コストパフォーマンスも良いものだと考えています。県内ではまだMEO対策という考え方が浸透しきっていないと感じているので、力を入れれば差をつけることもできます。新幹線開業などで福井県を訪れる方が増えていく今だからこそ、MEO対策を行うメリットも大きいですから、ぜひ始めていただきたいですね。

今からでもできる  
対策とは



この人に  
聞きました！

福井県よろず支援拠点  
コーディネーター  
みちした こういち  
道下 宏一氏

### 【道下氏プロフィール】

株式会社BetterWEB 代表取締役  
福井県よろず支援拠点 コーディネーター

### 【アドバイス内容】

- IT活用<HP,EC,WEBシステム等による売上拡大や業務効率化>
- IT活用<SaaS等利用による販路開拓>

### 【資格・実績】

- 月商平均数百万円のECサイト制作運営実績
- 会員数1万人以上のWEBサービス開発運営実績

# アンテナショップで 首都圏での反応を探る

首都圏から見た福井県のイメージはどういったものなのでしょうか。2月にリニューアルした福井県のアンテナショップ、ふくい食の国291へのインタビューをお届けします。運営を行う中での出来事や訪れる方々の反応をお聞きするとともに、県内企業が活用できるアンテナショップの活動などを伺いました。

HPは  
こちら！



「食の国291」の簡単な概要を教えてください。

今年、青山と銀座に2店舗あったアンテナショップをそれぞれ、役割を変えて移転・リニューアルしました。ふくい南青山291は人との交流拠点、銀座にある食の国291は物販中心という形で位置づけ、運営もALL FUKUIという福井に根ざした企業でつくるコンソーシアムに切り替わりました。食の国291に関しては店舗の面積も広くなり、食品、伝統工芸品といった県産品、約2000点を取り揃えています。

リニューアル後の変化や訪れる方の反応はどうでしょうか。

立地の関係も大きいかも思いますが、リニューアル後、来店される方は倍近くになりました。新幹線開業も近づく中で、少なからず福井県への注目は高まっているのだと感じます。店内にある観光案内所では、県内の海鮮系のお店

号といった情報をきちんと載せることは大事ですね。

また、レビューの数を増やすことも大事です。MEO対策に携わる身としては、県内の店舗さんはレビューの数が少ないと感じています。レビュー数が多い店舗の方が参考にしやすいですし、魅力的に映ります。こうして考えると、レビュー数は企業にとって資産とも言えますね。具体的な方法で言うと、来店された方に声をかけるだけでも数を増やすことができますが、10月から始まったステマ規制もあるので、良い評価をしてねといった方法は取れないという点には注意したいですね。

もう1点お話しすると、レビューは公開アンケートとしての側面もありますから、お客様の声を吸い上げるツールにもなります。中には意図的に低評価をつける方もいますが、レビュー数が増えればその影響も小さくできます。

を聞かれることもあり、また飲食スペース「福とほまれ」でも海鮮丼が人気で、関東の方から見ると日本のイメージが強いと感じます。

食以外で言うと、実用性も重視されていると思います。お椀やお箸は食洗器に対応していますか、といったことを聞かれたりもしますね。越前打刃物が海外で受けているように、本当に良いモノであれば買っていただけるので、工芸品の価値をしっかりと伝えていきたいです。

食の国291の今後の展開ははいかがでしょうか。

首都圏、特に東京にはモノも情報も溢れかえっています。こうした場所で食の国291に来ていただくためにも、ここでしか買えないモノを充実させていきたいですね。また、食の国291をきっかけに福井のことを知って、興味を持つ



店内の様子。食品、伝統工芸品を中心に福井の逸品が並ぶ。

### DATA

#### ふくい食の国291

所在地:東京都中央区銀座1-5-8  
Ginza Willow Avenue BLDG 1階・地下1階

運営:ALL FUKUI

営業時間:ショップ 10:30-19:00  
福とほまれ 平日 11:00-15:00(L.O.14:30)  
17:00-21:00(L.O.20:00)  
土日祝 11:00-20:00(L.O.19:00)

定休日:不定休(年末年始を除く)

URL:https://fukui291.jp/ginza/

## 株式会社ヒゲ農園

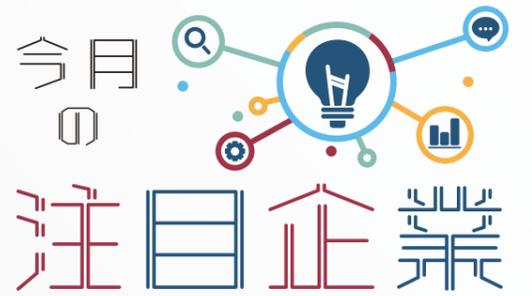
所在地：あわら市北潟276-120  
 代表者：関賢一郎氏  
 資本金：50万円  
 事業内容：サツマイモ栽培・加工品製造販売、  
 石焼き芋専門店『ヒゲ商店』運営  
 従業員数：7名  
 URL <https://hige-syouten.com/>



同社HPはコチラ!



代表取締役 関賢一郎氏



# とみつ糖蜜芋の 「冷凍焼き芋」で新事業展開へ

## 株式会社ヒゲ農園

あわら市富津地区で作られるサツマイモ『とみつ金時』。しっとりホクホクした甘さの特徴とするこのイモを石焼き芋にし、さらに加工品としても展開するのが、同市内の企業『ヒゲ農園』です。北陸新幹線延伸を機にいつそうの事業展開を見据える同社。設立の経緯や商品の特徴などについて、代表取締役の関賢一郎氏に伺いました。

### コロナ禍機に加工品に着目 自家農園での本格栽培も

関氏が、同社の前身である石焼き芋屋『ヒゲ商店』を始めたのは2010年。飲食業と無縁の仕事をしてきた関氏は、ある日食べた汁の味のサツマイモの味わいに驚き、焼き芋店という業種への関心が高まったそうです。  
 「焼き芋って、窯を載せた軽トラックが『流し』でやって来て、声が聞こえるとダツ

シュで駆け付けて買う、みたいな食べ物ですね。焼き芋店はそれほど吸引力がある商売。場所や営業時間を明らかにすれば、焼き芋好きのニーズにもっと応えられるのではと起業しました」

富津地区の農業生産法人『フィールドワークス』代表取締役で、関氏が「親方」と呼ぶ吉村智和氏との知己を得たことも起業のきっかけとなりました。関氏は同社が栽培するとみつ金時を石焼き芋と

して売ることにし、SNSを介して着実にリピーターを獲得得ていきました。

転機が訪れたのは2020年。コロナ禍によるイベント中止などで売上が減少する中、吉村氏からサツマイモ生産を勧められる声がかかったのです。

そこで関氏は県の新規就農支援施設「ふくい園芸カレッジ」に入校し、通算



同社が生産するサツマイモ。

としました。

手がける加工品は、冷凍焼き芋、冷凍焼き芋ペースト、冷凍スイートポテトと、冷凍がキーワードの商品群。「焼き芋は『焼いたらおしまい』という商品で、以前から商品ロスは何とかしたかったのです。冷凍化して寝かせれば、焼き芋を通年提供できるのでと考えました」

真空パック機や冷凍庫など導入し加工品製造に乗り出し、直営の石焼き芋カフェで冷凍焼き芋と芋焼酎とのペアリングを提案するなどの展開を試みました。「お客さまか

ら『相性のいい組み合わせ』という評価を頂いたのですが、焼きたて石焼き芋の食味や食感などが十分再現されないもどかしさがありました」

### 「日本の石焼き芋、全国へ」 北陸新幹線延伸も視野に

そんなある日、関氏は偶然、横浜市のメーカーが製造する凍結機の話題をテレビ番組で目にします。特殊な液体をマイナス30℃程度まで冷却し凍結するというこの機器。短時間で凍結するため細胞のダメージが比較的少なく、解凍

時のドリップも少ない物だったそうです。「これだ、と思っただけに電話しましたね。聞けば高級マグロの冷凍保存などにも使われる方法だそうです、これなら食味や食感の課題もクリアできるのでとは思いました」

機器導入に当たっては、ふくい産業支援センターの『新事業チャレンジステップ事業助成金』制度を活用。品質が格段に向上し、自然由来の甘さを染しめる新感覚のデザートとして販売できる基礎が整いました。関氏によると、「冷凍焼き芋の糖度は市販の芋ようかんと同程度」。無添加の良さが買われて横浜市



(上) 使用している冷凍機。「凍眠」と呼ばれる冷凍方式で冷凍する。  
 (下) 実際の冷凍焼き芋。

バターサンド老舗店から冷凍焼き芋ペーストの発注を受けるなど、好調な滑り出しを見せているとのこと。  
 サツマイモの特徴を生かす同社の商品群。関氏は、北陸新幹線延伸で増加が見込まれるあわら市への観光客へのリーチ、オンラインショップによる通信販売、県外セレクトショップを足がかりにした全国展開など拡販のプランを描きます。石焼き芋販売を手始めに、サツマイモ生産、加工品製造販売など関連事業に力を入れる原動力は何なのでしょうか。  
 「たかがイモ、されどイモですよ。一定期間貯蔵した後に出荷する『キュアリング』が特徴のとみつ金時は、やればやるほど奥が深い。手間ひまかけた『一流』の技術で、日本一の石焼き芋として流通させたいのです。差別化の軸をしっかりと据えて事業展開を語る熱い口ぶりが印象的でした。」

# 令和5年度版福井県の企業支援制度一覧 【ホームページ】のご案内

福井県では経営支援や商業・サービス業支援、IT・創業支援など多岐に渡る支援を実施しています。今回、自社が活用できる支援制度を分かりやすく、簡単に検索できる一覧を当センターHPにアップしました。個別の支援制度の詳細HPへのリンクも貼ってありますので、大変便利です。ぜひご活用ください。

主な支援制度  
(一部抜粋)

- ①取引適正化対策強化事業⇒取引先との価格転嫁にお悩みの方
- ②「人への投資」支援事業⇒従業員への教育訓練をお考えの方
- ③海外展示会出展支援事業⇒海外での展示会を通して販路拡大
- ④伝統工芸品販売ブースアップ事業⇒  
新幹線開業に向け、首都圏等への販路拡大をお考えの伝統工芸事業者の方
- ⑤地域連携創業支援事業⇒県内で創業をお考えの方



支援制度に関するご相談は総合相談窓口にお任せください。

専門家が無料でご相談に応じています(オンラインでも可、事前予約制)。

## 《 総合相談コーディネーター 》

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
 <b>北島 宏樹</b> 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、テレワーク導入 【資格】中小企業診断士、ソフトウェア開発技術者(IT系)	 <b>吉村 文男</b> 【専門】経営全般、創業支援、マーケティング、事業承継 【資格】中小企業診断士	 <b>松田 博史</b> 【専門】経営全般、現場改善、生産管理、事業承継 【資格】中小企業診断士、ものづくり改善インストラクター	 <b>津田 均</b> 【専門】経営全般、マーケティング、流通・小売・サービス業の相談 【資格】中小企業診断士ほか
 <b>佐藤 悟</b> 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、労務、事業承継 【資格】中小企業診断士、社会保険労務士、販売士1級、1級FP技能士ほか	 <b>友田 和幸</b> 【専門】経営全般、省エネコンサル、(カーボンニュートラル)、人事、労務、事業承継 【資格】中小企業診断士、社会保険労務士	 <b>前野 壽伸</b> 【専門】経営全般、生産管理・生産技術、6次産業化支援 【資格】中小企業診断士	 <b>佐々木 孝美</b> 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、SNS活用、事業承継 【資格】中小企業診断士ほか
 <b>加藤 永俊</b> 【専門】経営全般、創業支援、マーケティング、経営革新、事業承継 【資格】中小企業診断士、JMAA認定M&Aアドバイザー	<p>12月開催ミニセミナーのお知らせ  <b>「電子帳簿保存法対策ミニセミナー」</b>                      1月より電子帳簿保存法が改正となり帳簿の電子保存が義務化されます。当セミナーでは概要や対応方法等について、分かりやすく解説します。                      日時/ 12月4日(月) 14:30~15:30                      受講無料 オンライン受講可</p> <p>夜間相談窓口の開設について                      「平日の日中は仕事が忙しく、相談の時間がとれない!」そのようなお悩みにお応えするために夜間相談窓口を開設します。ぜひご利用ください。                      開設日 12/21(木)・1/18(木)                      開設時間 ①18:30~ ②19:45~                      3営業日前までの予約が必要です。月ごとの開催日や詳細はお問い合わせください。</p>		

相談無料

(公財)ふくい産業支援センター 総合相談窓口

お問い合わせ先

TEL:0776-67-7421 FAX:0776-67-7429 E-mail:soudan@fisc.jp



# よろず支援拠点 経営Q&A

人材活用GLと  
リファラル採用



疑問の概要

いくら求人活動を行っても人材が集まらないどころか、基本業務にまで人員が不足しかねない状況となっている。このままでは事業継続すら危うい。

経営者からのご相談には、良い人材に来てもらうために賃上げもやむを得ないが、限界があるという意見がある一方で労働者はやりがいを求めて転職する方もいるなど、人材獲得に関しては労使双方の意見の食い違いとなっているケースもあるようです。中小企業庁では「中小企業・小規模企業人材活用ガイドライン(GL)」を作成し、経営者・人事担当者、支援機関が手順を踏みながら人材獲得に向けた課題解決を行う手法を紹介しています。今回の事例は経営者との検討を重ねる中でご相談を受けた「リファラル採用」についてご紹介させていただきます。

## ◎「中小企業・小規模企業人材活用GL」とは

ステップ1でチェックリストを使って中小企業が抱える売上拡大や資金繰り等の日々の経営課題の背景に、人手不足や人材育成などが起因する可能性を見出します。

ステップ2では経営課題を解決するために必要とされる人材が事業上の様々な業務を担う「中核人材」か、事業の運営に不可欠な労働力となる「業務人材」かを明確にした人材戦略の検討を行い、経営課題の背景毎に、中核人材の採用、中核人材の育成、業務人材の採用・育成の3つの方向性と施策を結びつけています。

ステップ3では、経営課題/人材課題を人材戦略に落とし込み、実行するための具体的な取組み方法が整理され、取組みのポイント、サポート機関の紹介、支援施策、取組事例が紹介されています。

## ◎リファラル採用について

リファラル採用(Referral Hiring)とは、「縁故採用」とも呼ばれ、自社ですでに働いている社員からの人材の紹介や推薦による採用方法のことをいいます。

縁故採用と言うとどこか不誠実な印象をとられますが、最近では採用コストの増加や人材応募もそまが少なくなっている中、正式な採用基準に基づいた採用手法として確立させることで信頼できる自社スタッフの紹介によって人材を集め、採用のミスマッチを防ぎ、本当に自社の社風に合った人材を集められるリファラル採用が注目されるようになってきています。

リファラル採用の導入が増えているのは、コスト面のメリットもありますが、さまざまな業種で人口減少による人手不足が深刻化している社会的な背景もあります。

リファラル採用の利点としては、①採用コストの削減、②既存のネットワークと異なった層との接触、③企業にあった人材を確保できる、④新たな基準として自社について考える機会ができるなどがあげられます。

## ◎リファラル採用を実施する際の注意点

リファラル採用は企業が優秀な候補者を見つける方法の一つ

であり、社員が積極的に新しいメンバーを紹介することで、組織全体を活性化させる可能性がある一方で紹介する側と候補者との関係がプロフェッショナルでない場合、採用選考は通常通りに行われるため場合によっては不採用になってしまうこともあるので、紹介者である社員と紹介された知人との人間関係に影響を及ぼす恐れもあります。

また、リファラル採用で採用した人材と紹介者である社員は友人・知人関係でもあるため、社内の人間関係への配慮が欠かせません。紹介者の社員が採用された人材を優遇してしまったりしないように配属や人材配置への配慮が必要です。

さらに、社員がリファラル採用される人材を紹介した時に、報酬や報奨金といったインセンティブを与えると、「有料職業紹介」として企業と従業員の双方に対して違法性が問われてしまう可能性があります。

労働基準法において、賃金や給料に関する事項は絶対的の必要記載事項として必ず就業規則に明記しておかなければならないと定められています。企業がリファラル採用に関するインセンティブを従業員に支払うことは原則違法とされていますが、賃金や給料の形で支払うことは例外として認められています。

リファラル採用に関するインセンティブを賃金や給料の形で支払う以上は、支払い時期や支給額、その他の支払い条件を必ず就業規則に明記しておくようにしましょう。

## お役立ちツール紹介

中小企業庁

中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドライン

3年ぶりに抜本的に改定。併せて、経営戦略と人材戦略に一体的に取り組み成果を上げた事業者を紹介する事例集を公開しています。

活用についてご不明な点等があれば福井県よろず支援拠点までお気軽にご相談ください。

▶中小企業・小規模事業者  
人材活用ガイドライン  
ダウンロードページ



▶中小企業・小規模事業者の  
人材活用事例集  
ダウンロードページ



福井県よろず支援拠点では、専門家が各種経営相談に無料で応えています。お気軽にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL:0776-67-7402 E-mail:yoro-zu@fisc.jp



## 中小食品製造業の粗利最大化を目指す！ 食品製造現場から生まれたシステムを全国へ展開

県内の成長意欲の高いベンチャー企業を紹介するシリーズ。今回は中小食品製造業の粗利最大化を目指す株式会社アラリード（坂井市）の事例をご紹介します。

### 粗利最大化を目指すシステム 「Aralead（アラリード）」

生産計画から実績まで、製造に関わるデータを一元管理して収集・分析し、商品開発部・営業部とともに粗利最大化を目指すシステム「Aralead（以下、アラリード）」は、北陸を中心にパン類の製造、委託販売を行う株式会社オーカワパンで2021年に開発されました。

同社は当時、総生産高は伸びる一方で粗利率は伸び悩む状態に陥っていました。利益率の向上は喫緊の課題でしたが、同社大川社長は「単なる利益率向上ではなく、お客様が喜んでくださる適正な価格、商品を実現したい」という思いから自社独自の原価管理システム「アラリード」の開発に着手。これを担当したのが、現在、株式会社アラリードの代表取締役である森本氏です。



### データ収集から開発に着手

森本氏は、金融・自治体のシステムエンジニアとして20年従事した後、株式会社オーカワパンに2017年に入社し同社内の業務システム化の推進を担当。翌年製造部長に就任した森本氏は、「データがないとそもそも分析が全く進まない」と考え、製造部のデータ化と製品原価を算出するシステムをExcelで開発。その後、経済産業省の「新連携事業」の認定を受けて補助金を活用しながら「アラリード」の開発を進めました。

### 粗利益が大きく改善

「アラリード」の運用を開始してから同社では2020年度の粗利率が前年度比2.5%改善。2021年度は、材料費高騰もあって伸び悩みましたが、労働生産性は2019年度比で2020年は10%、21年は15%改善しました。加えて、部門の垣根を越えて情報共有することによ



### 株式会社アラリード



代表  
森本 健嗣氏

所在地 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 福井県産業情報センタービル  
HP <https://aralead.okawapan.co.jp/>  
TEL 0776-67-7448 E-mail [k.morimoto@aralead.co.jp](mailto:k.morimoto@aralead.co.jp)

て、製造、商品開発、営業の3部門が連携して原価と粗利を管理できるようになるなど経営改善にも大きく寄与しました。

### 2023年にアラリード社を設立

これらの成果により森本氏をアラリード事業部長として2021年8月に外販を開始。2023年8月には株式会社アラリードを設立し森本氏が代表取締役に就任。本格的な拡販に着手し、2023年11月現在ですでに同業であるパン製造業だけでなく、食品加工業、水産加工業、洋菓子・和菓子製造業など多様な工場に導入され始めています。

「アラリード」は、製造現場での経験をふんだんに盛り込んでいるのが特徴。製造現場の作業者が手元のタブレット端末を使い、作業の開始・終了時間や原材料の使用量、不良品の個数などを入力することで、人件費を含めた製品ごとの原価と粗利益が自動で計算されるなど、現場で使いやすい設計が製造現場から選ばれる理由となっています。



### 地方発DXベンチャーの好事例として

現在はオーカワパンの事業部長も兼任する森本氏ですが、2024年3月にオーカワパンから事業移転を受け、システムの販売に加えて初期導入および運用のコンサルティングなど、中小食品製造業の粗利最大化を目指す事業を展開していくとのこと。この取り組みが、地方発DXベンチャーの好事例として大きな成果を生み出すことを期待せずにはられません。

HPでも情報発信しています。ぜひご覧ください。

<https://www.s-project.biz/>

執筆者：新産業支援部  
ベンチャー・EビジネスG 岡田留理



# デジタル変革への 挑戦！

県内企業のデジタル活用事例紹介

県内企業のデジタル活用事例をご紹介します本コーナー。

今回は、計画的にDXを推進している

福井県環境保全協業組合（福井市）の事例をご紹介します。

## 社内DXの全体像を描き、計画的にDXを推進

同組合は組織内に情報システム担当者を配置するなど、これまでもIT化に熱心に取り組んでいました。現在、DXを具体的に進めるために社内プロジェクトを立ち上げて、社内での合意形成を図りながら計画的にDXを推進しています。

### 社内プロジェクトによる合意形成

同社はふくいDXオープンラボの「DX専門家派遣事業」の報告書の内容を実現するために社内にDXプロジェクトを立ち上げることに。プロジェクトメンバー15名による検討会議を2021年12月～2022年6月に計13回行い、全社的なDX推進に向けて各サブシステムについての検討を実施しました。これにより、社内の様々な課題に対してデジタル技術で解決する方法についての合意形成が図られ、以下のようなシステムの導入が検討されました。

- オンライン現場システム ●遠隔監視システム
- 試薬管理システム ●作業実績収集システム
- ワークフローシステム ●電子帳簿保存法への対応 等

この中から、まずは「オンライン現場システム」に取り組むことになりました。

### 目的と目標を明確にして システム構築に臨む

「オンライン現場システム」を使用する浄化槽や集落排水の維持管理事業では、下水道の普及や人口減少により、



対象世帯数の減少傾向が続いています。また、維持管理する浄化槽や集落排水の設置場所は市街地から離れた地域が多く、移

動に時間がかかるなど生産性が悪い状況になっています。

そのため、事務作業のために事務所に戻る時間を減らすなど業務の効率化を図ることや、外出している社員との電話等のコミュニケーションを効率的に行うことで緊急時の顧客対応などをよりスピーディーに行えるようにすることが課題となっていました。そこで、システム構築により顧客満足の向上を図ることを目的とし、緊急時の対応時間を3時間短縮して緊急対応時の平均訪問数を3件増加することを目標としました。

### 作業効率とセキュリティの両立で 顧客満足の向上

作業効率（使い勝手の良さ）と情報セキュリティ対策という二律背反の事項を両立できるよう、以下のような機能が実現できるシステムとし、開発時には現場作業を担う社員に試用してもらい、その評価をシステム開発にフィードバックするようにして、システムの構築を行いました。

①事務所に戻らなくてもオンラインで過去のデータ等にアクセスできる②地図情報を利用して点検場所へのルートがわかる③電波の届かない訪問先での作業もあるため、オフライン状況でも実績の入力ができ、電波状況が改善してから実績を送信できる④端末を紛失した際の情報漏洩対策としてBitLocker機能を利用する⑤BCP対策に対応するため、クラウド環境にバックアップシステムを構築する

DXの全体像を明確にして計画的に順次推進することが、DXを成功に導く近道である事例です。

### 会社概要

## 福井県環境保全協業組合

[サービス業（浄化槽の維持管理、環境計量証明、作業環境測定）]

代表者名：二木 和則 氏 所在地：福井市角折町第8号3番地  
HP <https://www.kankyohozen.or.jp/>



ふくいDXオープンラボ  
公式サイト

### お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター DX推進チーム  
TEL:0776-67-7416 FAX:0776-67-7439 E-mail:dx-g@fisc.jp

### 特設サイトで公開中です

DXラボでは、福井県内企業40社のデジタル活用事例を特設サイトで公開中です。IT関連企業の情報も掲載していますので、情報収集にご活用ください。

オンライン同時開催

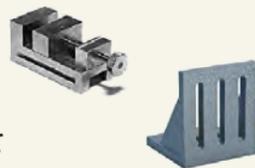
## 治具設計の基礎セミナー

日時:12月12日(火) 9:30~16:30  
 会場:福井県中小企業産業大学校  
 受講料:23,000円(消費税込)  
 講師:ジンコンサルティング  
 代表 西村 仁 氏

モノづくりの基本となる「位置決め」と「固定」を簡単に行える治具。この研修は治具設計に初めて取り組む方を対象に、設計の基礎をお伝えします。経験不問、安心してご参加ください。

### プログラム内容

- ✓ 治具を導入する狙い
- ✓ 治具による位置決めについて
- ✓ 固定(クランプ)について
- ✓ ねじの活用
- ✓ 治具図面の描き方の注意点



オンライン同時開催

## OJTを成功させる指示の出し方・ 報連相のさせ方・受け方

日時:2024年3月8日(金) 9:30~16:30  
 会場:福井県中小企業産業大学校  
 受講料:22,000円(消費税込)  
 講師:ディレクターズ(株) 代表取締役 井上 安立 氏

部下の指導に困っていませんか?この研修では、「指示の出し方」、「注意の仕方」、「褒め方」、「報連相のさせ方」など、できているようでできていない指導の基本を、現場ですぐに実践できるよう具体的に学びます。

### プログラム内容

- ✓ 指示の出し方のクセを知る
- ✓ 部下が動く指示の出し方
- ✓ タイプに合わせた報連相のさせ方
- ✓ 忙しい日常の中でOJTを計画的に進める



紙一枚でデザインが変わる!

## “越前和紙”で実践する ラッピング

日時:2024年1月24日(水) 13:30~16:30  
 会場:福井産業技術専門学院  
 受講料:4,000円(消費税込)  
 講師:福井産業技術専門学院  
 指導員



「ラッピング」は、商品を差別化する上で重要な顧客サービスの一つと言えます。商品を魅力的に演出するラッピング手法を学び、消費者の購買欲を高めましょう。この研修では“越前和紙”を使用し、簡単なのに手が込んで見える、ラッピングスキルとリボンアレンジを実践しながら学びます。

こんな方におすすめです!

- 小売り・サービス業の店舗担当者
- ラッピングスキル、新たな包装のテクニクを学びたい方

## すべて受講無料! 3つの公開講座を開催します

12/20 ~オーディオテクニカフクイ社員が語る~  
**この福井で世界を相手にしたモノづくりを**  
 製品開発の隅々を知る現役社員が、自社の製品やオーディオの原理についての紹介のほか、モノづくりの楽しさとその裏側にある苦労を語ります。また、福井で働くことの意義など、これからモノづくりの道を志す若者へのエールを送ります。

1/24 ~社員が自ら育つ!職場に活気が出る!生産性が高まる!~  
**人材育成とキャリア支援**

「選ばれる企業」に欠かせないキャリア支援について、具体的なメリット、取り組み事例を紹介、解説します。自社人材の現状を振り返り、課題や対策を考えます。

2/15 中小企業のための「脱炭素経営」に取り組むヒント  
 ~カーボンニュートラル実現に向けて~

脱炭素に関する世界の潮流に伴い、中小企業でも自社のCO2排出量の見える化・削減が求められはじめています。この研修では、CO2排出の削減方法や取り組むメリットなど取り組みの全体像を学びます。



GOOD DESIGN



## 2023 グッドデザイン・ベスト100

屋外遊具 SAPIENCE /株式会社ジャクエツ

一般的な遊具は四角をベースにシステム化して、踊り場に滑り台やはしご、通路等の遊び要素を組み合わせて構成します。設計、製造面でコストを抑えて生産できますが、遊びの幅が限定され、またシステム化された総合遊具は運動能力の向上が主軸となる傾向があります。しかし昨今、子どもが将来生きていく上で大切な力として非認知能力が注目されています。これは創造性、協調性、自己管理能力、問題解決力など、数値化が難しい反面、大人になってから重要な役割を担う能力です。幼児期から非認知能力を育む上で大切とされているのが自然あそびですが、現代社会の子どもたちは自然に触れる機会が減少しています。

SAPIENCEは円や曲線を三次元的に構成し水平な踊り場をなくすことで、遊びながら判断力を養い、挑戦する心を刺激する、難易度の高い鉄製遊具です。まるで自然の中で木登りや石渡りをするかのように感覚を研ぎ澄ませて、身体をダイナミックに使うことで遊ぶことができるので、子どもたちは飽きずに夢中になって遊び続けます。

また、手すり等のアイコニックなアフォーダンスを削減し、子どもが、くぐる、足を掛ける、抱きつく等、どのように動くかを細かく検討し、遊具全体の構成や形状がアフォーダンスとなっているデザインにより、一見すると大人には遊び方がわかりませんが、子どもたちは遊び方を肌で感じ取り、遊び始めます。

### 【審査委員の評価】

担当審査委員 | 山崎 宣由 小林 マナ 柳原 照弘 吉田 貴子

支柱と梁、ジョイントパーツとロープネットだけのシンプルな構造にも関わらず、曲線と傾きの変化だけで他社にはない個性的なデザインに昇華させている。有機的なフォルムは幼児の好奇心を掻き立てるデザインだが、同時に安全性も担保しており、見た目だけでなく膨大な量の検証を重ねて生まれた非常に優れたデザインである。グレーと黒のベースにオレンジのロープがアクセントのこれまでの遊具にはないカラースキームも、様々な条件の空間に馴染むことができ、思い切った提案が功を奏している。

お問い合わせ先



人材育成部(福井県中小企業産業大学校)  
 福井市下六条町16-15  
 電話0776-41-3775 E-mail manabi@fisc.jp

お申込みはホームページから

中産大  検索

創業を予定されている方、創業後5年未満の経営者の皆さまへ  
経営者保証が不要な保証制度のご案内です！

スタートアップ創出促進保証

保証限度額 3,500万円

保証期間 10年以内

担保・保証人 不要

対象者 法人(※)として創業を予定されている方、  
創業後5年未満の法人(※)

※会社法第2条第1項に定める株式会社、合名会社、合資会社、合同会社等

福井県信用保証協会が公的な保証人として金融機関からの資金調達をサポートします。  
経営者の方が連帯保証人になることなく創業のための融資を受けられるので、創業後も安心して事業に専念することができます。

お問い合わせ先 福井県信用保証協会

〒918-8004 福井市西木田2丁目8番1号(福井商工会議所ビル内)  
TEL.0776-33-1800 (代表) <https://www.cgc-fukui.or.jp>



ランチタイムコンサートを  
開催します

福井県産業情報センタービル1階のエントランスロビーにてランチタイムコンサートが開催されます。  
(主催：ソフトパークふくい協同組合)どなたでも無料でご入場いただけますので、ぜひご参加ください。  
(途中参加・退席可)

遠方からご来場の方は福井県産業情報センタービル第2駐車場をご利用ください。

日時 2023年12月20日(水) 12時15分開演予定  
(約30分間)

場所 福井県産業情報センター  
1階エントランスロビー

演奏者 COLORS クラリネット 南部 匡恵  
サクソフォン 片山 奈々愛  
マリimba 平岡 愛子、山崎 智里

お問い合わせ先

ソフトパークふくい協同組合  
事務局 TEL 0776-67-7360



情報誌F-ACTの裏面広告を  
募集しています！

本誌F-ACTでは、毎号裏面広告を募集しています。  
ぜひご利用ください。

掲載時期：奇数月の25日(要相談)  
料金：49,500円(税込)

※広告データは原則、イラストレータ形式でお願いします。他のデータ形式の場合、要相談。  
発行月の10日までに広告データをお送りください。  
ご利用をご検討の方はお電話またはメールでご相談ください。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター F-ACT編集担当  
TEL 0776-67-7425 E-mail kouhou-g@fisc.jp

令和5年度福井県の企業支援  
制度一覧を改訂しました

福井県の企業支援制度一覧を10月19日付で改訂しました。ホームページでは各事業のリンクもありますので、ご活用ください。

……… 各種ご相談は総合相談窓口まで ………

総合相談窓口では、経験豊かで専門的な知識を有した中小企業診断士のコーディネーターが、皆様からのご相談にお応えします。

各種補助金の活用や、事業計画の作成など経営課題を全力でサポートします。ご相談は無料で何回でも可能ですので(面談・オンライン両方可)、お悩みの際はお気軽にお問い合わせください。

企業支援制度一覧、相談窓口の詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

総合相談窓口 TEL 0776-67-7421

「テーマ別個別相談会」  
(よろずゼミ)を実施しています

福井県よろず支援拠点では「テーマ別個別相談会」(よろずゼミ)を実施しております。自社で抱える経営課題、セミナーで聞けなかったことや各相談者様に適した方法について、様々な専門家に個別にご相談できます。現在お悩みのテーマやご興味のあるテーマがございましたら、お気軽にご相談ください。

日時 随時開催(完全予約制)  
※開催日時はメールもしくはお電話にて調整  
① 9:30~10:30 ② 11:00~12:00  
③ 13:00~14:00 ④ 14:30~15:30

開催方法 ふくい産業支援センターでの開催、  
またはオンライン

定員 各回1事業者  
詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

福井県よろず支援拠点 TEL 0776-67-7402

海外展示会等出展支援事業補助金の  
2次募集を行っています

海外での展示会や商談会に参加し海外販路の開拓にチャレンジする県内の中小企業者に対して出展経費の一部を補助する海外展示会等出展支援事業の利用企業を募集しています。今回から海外現地法人の出展や、JETRO「ジャパンブース」への出展が対象となりました。

募集締切 12月11日(月) 17時まで

補助上限額/補助率

3者以上のグループ(2件程度):

上限額100万円 補助率1/2 ※千円未満の端数は切捨て

組合、個社・個人(7件程度):

上限額15万円 補助率1/2

詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 経営支援部  
TEL 0776-67-7407

サテライト講座の受講者を  
募集しています！

サテライト講座は、東京の教室で行われている研修を、ふくい産業支援センターの特設ブースで受講できる新しい研修スタイルです。これまで首都圏でしか受講できなかった専門的な研修を、公的機関ならではのリーズナブルな料金で実施します。ぜひ、社員教育やリスクリングにご活用ください！

※お申込みは「福井県内企業」または「福井県内の個人」に限定させていただきます。

《コンテンツ提供》

(株)富士通ラーニングメディア  
(F L M)



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター IT研修担当  
TEL 0776-67-7411 E-mail pckouza@fisc.jp

情報収集と情報発信、企業・イベントPR等に！  
「ふくいナビ」をご活用ください

(公財)ふくい産業支援センターでは、県内企業の皆さまの経営に役立つ情報を集めたポータルサイト「ふくいナビ」を運営しております。「ふくいナビ」では、下記のようなサービスを提供しておりますので、ぜひご活用ください。

イベント情報や公募情報などをまとめて見られる！

県内中小企業支援機関による講演会・セミナー等のイベント情報や、国・県等による助成金等の公募情報など、経営に役立つ情報が盛りだくさんです。

メルマガ、メーリングリストを無料で提供！

企業と顧客、あるいは企業同士でのコミュニケーション・ツールとして利用できる、メールマガジンやメーリングリスト等の機能を、無料で提供しています。

ビジネス情報を自ら発信！

県内中小企業の皆さまが、自社で開催するイベントや新製品の情報などを自ら発信することができます。



毎週月曜日、「ふくいナビ」の情報の中からタイムリーな情報をお届けするメルマガジン『週刊！ふくいナビ情報』を配信しています。配信をご希望の方はメールアドレスをご登録ください。

お問い合わせ先  
ふくいナビ運営事務局  
【(公財)ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部】  
TEL.0776-67-7425 E-mail info@fukui-navi.gr.jp



本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう！

企業情報メール便

販路開拓のチャンス！  
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便（チラシ同封サービス）を毎月実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



●次回実施号  
VOL.63 1月25日発行予定  
チラシ提出締切日：1月18日(木)  
チラシ1,700部をご提出  
(持参または配送) 願います。

同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
A 4判以下のチラシ	6,600円
料金 A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA 4判以下のサイズにすること)	9,900円
A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	13,200円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部 F-ACT担当  
TEL.0776-67-7425 E-mail kouhou-g@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは  
公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>  
One to Oneサービス推進部  
TEL 0776-67-7425/FAX 0776-67-7429/E-mail : kouhou-g@fisc.jp  
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

皆様の声を  
お聞かせください!!

「〇〇が面白かった、ためになった」、  
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、  
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、  
「▲▲会社がやっている■ ■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

今号では「交流人口拡大に向けて～福井県の可能性を探る～」と題し、福井県に移住されて事業を行う方々や専門家の方々にお話を伺いました。新幹線開業や中部縦貫自動車道の整備など、福井県は交流人口の拡大が期待されていますが、実際にはどのような影響があるのか、また福井県が持つ可能性にはどのようなものがあるのかを探りました。移住された方々からは、移住者から見た福井県の姿といったお話も伺うことができました。ご対応いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

今年ももう残りわずかになりました。年末年始に向けて慌ただしい方も多いのではないのでしょうか。こういった時期だからこそ、体調管理にも気を配って元気に過ごしていきたいですね。良い年末年始を過ごせるよう、残りの1か月間、頑張ってください！

次号の発刊は年明けの1月25日を予定しております。引き続きご愛読のほど、よろしくお祈りいたします。



お酒とおばんざい ななと実

福井駅前に居酒屋がオープン  
落ち着いた店内でお酒とおばんざいを

今年9月14日、福井駅前にオープンした居酒屋「ななと実」。同店では、女将の新井さちこさんが日本酒を軸にしたお酒と家庭的なおばんざい料理を提供しています。お店を開くにあたっては、ぼんた（齋藤敏幸社長）のバックアップ飲食店事業によるサポートを受けました。新井さんは「分からないことだらけの中、齋藤社長からのサポートは本当に助かりました。特に金銭面には不安もありましたが、おかげで自己資金のみで開業することができたので、感謝しています」と話します。

「来ていただいた方がほっと過ごせる場所にしたかった」と話す店内にはカウンターが10席。一人でも立ち寄りやすい落ち着いた雰囲気とお酒に合う日替わりのおばんざい料理が好評を得ています。「お店の雰囲気や料理はもちろんですが、お客様との会話も大切にしています。一人でも気軽に立ち寄れて、特別な時ではなくても自然に行きたくなる、そんなお店にしていきたいですね」と新井さん。「ななと実」でお酒とおばんざいを楽しみながら、ほっとするひと時を過ごしてみたいでしょうか。

ご来店  
お待ちしております！



お酒とおばんざい ななと実  
住所: 福井市大手2丁目6-4  
マルダイビル 1階  
営業時間: 16:00～22:30  
定休日: 日曜日、祝日  
URL [https://www.instagram.com/nanatomy\\_sachiko/](https://www.instagram.com/nanatomy_sachiko/)

話題の  
新スポット巡礼

県内企業が打ち出した気になる新スポットに「ナンゴ」編集担当が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.34



中小企業診断士は、  
企業という国の参謀なり。

## 中小企業診断士は 福井県内各エリアで企業を 支援しています。

「中小企業診断士」は、中小企業の経営課題を達成するための診断・助言を行う専門家です。経済産業大臣が登録する、わが国で唯一の経営コンサルタントの国家資格を保持します。幅広い知識や能力を活用し、企業と行政、企業と金融機関を結ぶパイプ役となりながら、公共・民間部門問わず様々な問題に取り組んでいます。

### 主な相談内容

- 創業・起業支援
- 事業再生・経営改善計画策定支援
- 講師派遣事業
- 福祉・農業・観光に関する研究会
- 各種補助金計画書作成
- 他士業との連携による事業開拓
- 創業を含む各種セミナー
- 診断士を目指す方対象の養成塾
- 各種無料相談会

### ご相談方法

お近くの金融機関等にて「診断士に相談したい」と窓口でお伝えください。

福井銀行 / 福邦銀行 / 福井信用金庫 / 越前信用金庫 / 敦賀信用金庫 / 小浜信用金庫 /  
福井県内各商工会議所 (福井・敦賀・武生・大野・勝山・小浜・鯖江) / ふくい産業支援センター /  
福井県信用保証協会 / 福井県商工会連合会 / 福井県内各商工会

一般社団法人

福井県中小企業診断士協会



<http://www.sindan-fukui.jp/>

〒910-0804 福井県福井市高木中央3-1001 2F

TEL.0776-53-8539 FAX.0776-97-8773 info@sindan-fukui.jp

新幹線需要に向けた  
新しい取り組みを支援!